



様々なレベルでの「参加」を促進する実践的教育・研究

法文学部 教授 每熊 浩一

人々が社会的な問題に関わる場や機会は、いろいろです。例えば、選挙での投票、行政に対する要望、NPO活動、寄付やボランティア等々。私の使命は、このような様々な「参加」を促すこと（と、その要因を探ること）にあります。以下、いくつか例示しましょう。

まずは「自分ごと化会議in松江」。これは、市民同士の協議の場を設けたものですが、テーマが原発であったこと、市民は「無作為抽出」で選ばれたこと等が人々の耳目を集めました。政治参加については、学生サークル「ポリレンジャー」を中心に、選挙情報ポータルサイトを作ったり、高校とコラボして主権者教育にも携わったりしています。NPOに関しては、「行政学ゼミ」で、NPO活動の促進等を狙った条例案を学生自ら作成し県議会に陳情したことが、条例成立の契機となりました。寄付については、共同募金会の改革にコミットするとともに、自分なりに独自の分析を加えた論文も公表しています（「自分史の超NPM論・寄付編」）。



「自分ごと化会議in松江」協議会の様子



「マニフェスト大賞」授賞式にて